念願叶って

マーシャル方面遺族会
（旧クェゼリン方面戦没者遺族会）
郵便番号 154
世田谷区野沢3—11—3
電話 東京（424）4300
振替口座東京93487番
編集兼発行人　浮田信家

現地墓参に寄せて

会長　浮田信家

願みますに靖国神社での結団から、グァムでの解散まで、私は殆んど口出しせず、なすところなく過してしまいました。それなのに成果は予期に数倍したと思います。

アリゾナ号の正式弔訪、国立記念墓地の参拝、予めお招ねきした前ハワイ州副知事閣下御夫妻始め全員御出席いただいた事は従来の御協力に些か謝意を表し得てハワイでの感謝。

予告もなく一行全員晩餐への被招待、これに応え異郷、短時間に一行全員力を協せての調理、接待、ローラへの被招待マロエラップ戦跡視察弔問はマジュロでの感謝。

司令官以下米軍の想像もできない親切な取扱い、短い給油時間を一秒でも多く利用できるよう米軍、島の方々のきめ細いお気遣い、墓参中機内で待機の乗務員、乗客に対する米軍のサービス、撮影の寛大さ等はクェゼリンでの感謝、

土、日を前にし、信託統治領高等弁務官の最高特別補佐官の要職にあるドワイト・ハイネ閣下がサイパンから空路出席下さった事また日本を慕うガイドさんはグァム島での感謝。

戦死した私の義弟の姉という因縁で家内も参加し、身辺の世話や先方の方々に適当な応接をしてくれた事も感謝。

これらの事は当然のことと軽視できましょうか。米軍はじめ、現地在住の方々、佐藤副会長を先頭に本会役員、会員の方々、交通公社の方、何れもが臨機応変、何れもが身を犠牲にして御協力、御努力の結果、全く感謝の外ありません。

巷間我国からの海外旅行者の中に時折不行跡者ありと聞く今日、我々一行の一挙手、一投足、服装、容儀には大きな好感をもたれ、些も後指をさされることのなかったのは、全員が墓参に徹した結果と思い感謝の至りです。

クェゼリンが特別地域であるための制約は些かも緩和されておりませんので、将来今回通りできるかどうか予測は出来ません。私達は亡き英霊があの麗わしい雰囲気、静かな島で厳粛な姿のまま安らかに眠りをつづけられる様誠意をつくして今日までの歩みをつづけましょう。

公私共の無為をお詫びし倍旧の御協力をお願いします。

目次

現地墓参に寄せて……会長　浮田信家(1)
十九年二月六日……共同通信社　三ケ野大典(2)
第一回現地墓参団の足跡……常任幹事　井上賀雄(2)
会員　高林セキ〃
墓参団に参加して……浮田桜代
クェゼリン墓参団に参加して……
副会長　佐藤宗丕(8)
常任幹事　井上賀雄(8)
常任幹事　佐竹エス(9)
幹事　秋山正清(9)
同　高林芳夫(10)
会員　荒木常子(10)
同　安藤サヨ(10)
同　池田徳太郎(10)
同　遠藤清巳(11)
同　小住龍(11)
同　大橋サク(12)
同　大槻とき子(12)
同　片山計(12)
同　神田環(13)
同　木下満子(13)
同　渋谷セキノ(13)
同　下釜春江(13)
同　白井まさ子(13)
同　高橋功(14)
同　佃喜美(14)
同　松尾フサ(15)
同　望月とよこ(15)
同　前田フサ(15)
同　山田あき(16)
同　山下みつ(16)
環礁ミレー抄(13)……(16)
墓参後のクェゼリン……チェンバレン夫人(17)
二月六日前後の行事の御案内……(18)
寄附者芳名……事務局(19)
事務局だより……(20)

十九年二月六日

三ケ野　大　典
（共同通信社編集委員室）

マーシャル諸島のクェゼリン、ルオット両島守備隊の玉砕が発表になったのは、昭和十九年二月二十五日午後四時だった。「……二月六日、最後の突撃を敢行、全員壮烈な戦死を遂げたり。……」。ラジオから流れる大本営発表は重苦しいふん囲気に包まれていた。この日、東京地方は厚い雲が空をおおい、雪でもちらつきそうなはだ寒い日だったことを、なぜか記憶している。空もようと同じように、放送も従来の玉砕発表と異った重苦しさがあった。

マーシャル玉砕が、最初の内南洋―日本領土での敗戦だったからだと思う。この日を境にして、太平洋戦争は明らかに日本領土での攻防が中心となり、日本軍は次ぎ次ぎに玉砕していった。戦史によると、クェゼリン島の戦闘は二月四日午前十時、日本軍の最後の突撃で終了したとなっている。また米軍はルオット島を二月二日占領したと発表している。だがマーシャル方面遺族会は二月六日を命日と決めた。当時の大本営の玉砕確認の日を根拠にしたと思はれる。

その二月六日の朝日新聞は一面トップに「マーシャルを直視、侵寇撃攘総決起」、準トップに「将に決戦の重大段階」という悲壮感と威勢のよさの入りまじった見出しの記事を載せている。このときすでに四千六百人の将兵が圧倒的な米軍の前に、文字通り、玉と砕けたことは知るすべもなかったに違いない。

当時の新聞をいま引き出して続み返すと、当然のことながら〃ゆとり〃の感じられない紙面作りになっている。威勢のよい見出しの裏に、ただごとでない戦局のあせりと、国内のせちがらさが、わずか四ページの紙面に充満しているようにみえた。

何しろ食糧は乏しく、家庭菜園に精を出す時代だった。六日の朝日の社会面も「寸土も遊ばすな」と増産にはっぱをかけ、ラジオ欄にも早朝の放送が「家庭菜園の手引き」というテーマだった。

マーシャル玉砕の発表があった日の翌二十六日の新聞は、玉砕の大本営発表と並べて「政府、決戦生活への非常措置要綱を決定」の記事を載せ、学徒動員体制、享楽追放をあげている。戦後よくマスコミの代表的人物として、引き合いに出される長谷川如是閑氏の「マーシャルの勇士に捧ぐ、大いなる教訓」の一文も文化欄に載せる紙面だった。

戦後私はマスコミの世界に入ってから、遺骨収集、慰霊問題を取材するはめになった。〃未成年戦中派〃として、太平洋戦争に大いに関心を持ったからかもしれない。昭和三十九年から四十年にかけて厚生省を担当していたとき、援護局の一隅で熱心にマーシャル方面遺族会の名簿と会報作りを続ける老紳士に会った。厚生省の役人の話でこの方が元海軍軍人ということを知った。これが浮田信家さんと私の出合いだった。二年後の四十二年四月三日、浮田さんと佐竹エスさんが遺族代表としてナウル島、オーシャン島を含めたマーシャル諸島、ギルバート諸島の十三の島々の戦歿者慰霊に出発するとのニュースを出稿した。

第一回現地墓参団の足跡

東京都　井上賀雄（長男）
新潟県　高林セキ（妻）

動機

未だ寒い二月六日、毎年同じ日に、靖国神社に参拝する遺族たちが、お互に話し合ってみると、同じマーシャル諸島で玉砕した戦士の親兄弟であり、又妻子たちであった。英霊のご冥福を祈り乍ら、未だ還らぬ遺骨の収集並びに慰霊のため、何とかして、マーシャル諸島に行きたいという一人一人の願望が本会発足の大きな動機であった。

準備

個人の力ではどうにもならないことも、遺族みんなで力を協せ、英霊の為努力しようという事で、現地訪問の準備を進めて来ました。

八年前、浮田現会長と佐竹現常任幹事の二人が、船便でマーシャル諸島、ギルバート諸島更にナウル、オーシャン両島へ、戦後の現地調査、戦歿者の遺骨調査、慰霊碑建立の為、行って来られたことにより、その願望実現への緒が拓かれました。

マーシャル諸島は戦後米国の信託統治領となっており、特にクェゼリン環礁の全域は機密地域であるため、米国国会議員でさえ立寄れない、まして外国人である我々日本人が団体で参拝に行くことなど考えられない地域であるのに、浮田会長並びに関係者のご努力と、本遺族会の熱意が、米軍当事者に理解された結果、現地墓参が認可された次第です。

早速渡航手続等を日本交通公社に依頼することになりましたが、さすがの交通公社も現地の様子不案内のため、会長の指導をうけて、計画をすすめました。マジュロのホテルの現状を知るまでは一時はマジュロでの野宿も敢て辞さない覚悟も定めました。

参加者の募集は環礁21・22号を通じ広く全会員に求めましたが、東京、長崎、広島、香川、長野、静岡、神奈川、埼玉、新潟等に及んだので、交通公社の連絡作業も大変であったと思います。

あわただしい出発前の暑い夏のある日、私は多摩墓地を訪れ、そこに眠る母と姉を揺り起して、父の待つマーシャルに、一緒に連れ行くことを祈りましたが大変喜んで呉れました。初めての海外旅行に、母、姉もと思うとき、心秘かに嬉しく、張り切って出発した。

皆さんのご感想、ご報告と重複する面は極力割愛し、高林セキ様のご感想文を主体に、一行の足跡を綴ることに致しましょう。

（井上）

結団式——靖国神社

8月10日（日）　東京　晴

午後3時、予定通り靖国神社参集所に全員集合。交通公社の添乗員を含め総員37名。午後4時から結団式。本殿に昇殿、神前で、一行の無事大任を果すことを祈願した後、浮田会長から、今回のマーシャル行実現の経緯、並びに行動、心構え等のお話、参加者の自己紹介（半数以上初顔合せ）、続いて交通公社の西田さんから、現地の様子、習慣、そして通関手続等の説明。

出発前の緊張の中にも複雑な気持（時恰かもクァラルンプールで、日本赤軍乗取り人質事件があった直後だけに）で見送りの家族たちと一緒に全員で記念写真をとる。

羽田——初めての飛行機

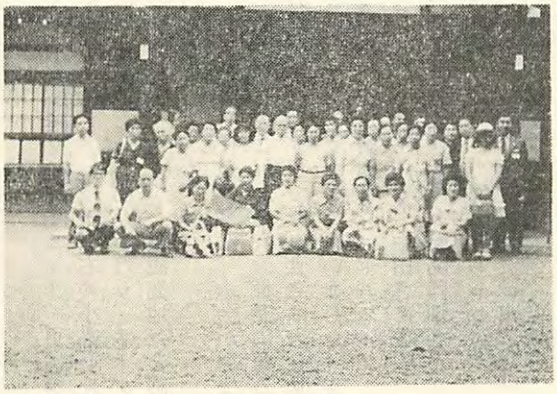
多少余裕時間があったので、見送りの人々と共に最後の団欒の一時を過ごし、予定時間に出国通関をしたものの、旅行者で満員の待合室で一時間位待機、漸くマーシャル方面遺族会の小旗を先頭に、パンナム830便、ジャンボジェット機に乗り込んだときは、既に午後10時過ぎ、管制塔の離陸許可が出たのは予定より一時遅れの午後11時3分。いよいよ滑走開始。約40秒で、地上を離れ、夜の東京を後に、グングン上昇、間もなく太平洋上高度一万米に達した。乗客の大半は日本人で、日本人のスチュアーデスも居て、機内放送も英語と日本語とであるのには、一同一安心、例により緊急時の乗客心得の説明、続いて夜食のサービス。眠りを誘うためジョニウォーカーの水割りを注文する人もいた。日付変更線を何時の間にか通過。時計の針を5時間進める代りに日付は逆戻り、再び十日の朝を迎へた。

ハ　ワ　イ

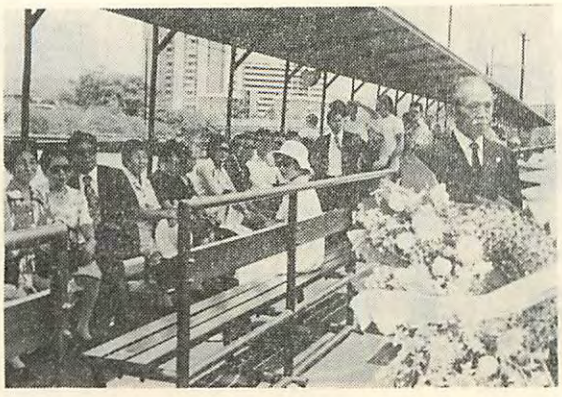
機内朝食の後、間もなく飛行機は下降を始めたらしく、多少耳の変調を感じた。窓からは、雲の間々にハワイ諸島が見え始め『真珠湾だ』と誰か言った瞬間何故か昭和16年12月8日未明のラジオニュースの情景が連想され、今昔の感一入だった。

一行37名の乗ったパンナム機は、予定より一時間遅れてホノルル空港に着陸、入国手続き、所持品検査に約一時間、空港ビル出口では可愛いハワイ娘に生花のレイを首にかけて貰い、一人一人握手。南国の甘い花の香りが、プンプンと鼻をつく中に、如何にも外国に来たという実感を味わいました。

昼食時刻は過ぎていましたが、時間の関係で、直接、真珠湾の「アリゾナ記念館」に行くことになり、用意されたバスに乗り込み、椰子の並木を一路真珠湾に向った。米海軍のランチで湾を横断約30分。居ならぶ軍艦を見乍ら感無量といったところ。慰霊塔の下の



靖国神社参集所前



アリゾナ記念館行ボート待つ間に

墓参団に参加して(1)　浮田　桜代

○玉串を　捧げし老人（おいびと）　安かれと
○片かげり　柏手（かしわで）残し　宮出でし

墓参団に参加して(2)　桜代

○都の灯　名残惜しみて　旅立ちぬ

墓参団に参加して(3)

桜代

○赤きレイ
　香らせバスは日盛りを
○昼食の　パインに憩う
　青葉かげ
○つつがなき　旅を祈れば
　虹立ちぬ
　アリゾナにて
○白南風（しらはえ）や　幾年を経し　波枕
○花束を　捧げて祈る　夏の海

アリゾナ号には未だ千余の遺体がそのままになっているとか。艦内に有毒ガスが充満しているので引揚げられないと聞き胸の痛む思いがした。会長さんの献花につづき、全員で黙禱。冥福を祈った。先づは最初の公式訪問行事を無事終らせた。敵味方を超えた人類愛に基く慰霊の考えがあればこそ、今回の現地慰霊が実現されたものと思われます。夏休み観光のアメリカ人が我々の胸につけた英文会名の名札に気づき珍らし気に話かけて来る人もいた。

やっとエアポートホリデーインで軽食。アチラの素敵なご馳走（パイナップルポート）を慣れぬ手つきで頂く。

再びバスで、ガイドの中村さん（最近アメリカに帰化した日本娘）の説明を聞き乍らホリデー、イン、ワイキキビーチホテルに落付く。

ホテルの窓からの眺望は素晴らしく、前方左にワイキキビーチ、更に遠くダイヤモンドヘッド、右の小高い丘には住宅地らしい明りが灯り、ネオンの輝きなど、さすが一級観光地だと感心しました。

ケアロハさんの温顔に接し

ハワイ第一夜の行事は、本会が今までに、そしてこれからもお世話になる方々をお招ねきしての夕食会は大食堂カタマランラウンジで行いました。先づ前ハワイ州副知事ジェームス・ケー・ケアロハさん夫妻、中田さん夫人、ハワイ日系人連合協会顧問岡畑さんご夫妻、ハワイ大学教授ベリンガーさんご夫妻、故萩原金次郎本会幹事二男萩原進さん等のご出席を得て、色々とお話をいただいたことは誠に光栄の至りでした。和やかな楽しい雰囲気の中で、アッという間に過ぎてしまいました。

（飛行機内で睡眠できなかった人は、三十二、三時間寝ていないので、眠かったかもしれません）

8月11日（月）　ホノルル　晴

午前、市内観光。バスでワイキキ通り、ハイビスカスなど花一ぱいの市民住宅、広い高速道路、通勤、通学も総て車、貿易風の強く当るヌアヌ、パリ峠、太平洋国立記念墓地のあるパンチボウルの丘、その女神像の下記念堂の中にはクェゼリン、ルオット等の戦闘図絵が展示してありました。続いて椰子の茂る美しい前庭のあるイオラニ宮殿等を見物してトップオブワイキキレストランで昼食。

午後、自由行動。

散歩にはインタナショナルマーケットプレイスや、ワイキキビーチ、またちょっと遠いアラモアナショッピングセンターで楽しむなど裕福なアメリカの良さを十分に見ることができました。

第二夜の晩餐会には、環礁で良くご存知の本会篤志会員徳原徳子さんがご出席下さいました。

お話の中に、8月11日正午ラジオKOHOローカルニュースで徳子さんが「第二次大戦中南洋方面で戦死した日本の軍人の遺族代表が、立ち入りを禁ぜられていたマーシャル群島クェゼリンにこんどはじめて入域を許され墓参に行くことになりました。

マーシャル群島をはじめ、マキン、タラワなどのギルバート、エリス諸島での第二次世界大戦中の日本軍戦死者は三万五千といわれ、特に戦いのはげしかったのはクェゼリンでした。しかし現在ではクェゼリンはアメリカ陸軍によって管理されたミサイル発射場で外国人の立ち入りはきびしく制限されている所です。東京に本部を置くマーシャル方面遺族会では二十年余り根気よく各方面に歎願をつづけた結果、この程入域が許され、遺族代表36人は、昨日東京からホノルルに到着。明日クェゼリンに向けて出発します。この遺

ホリデーインホテルにて

族会では数年前、日本で墓石の材料一切を調達しクェゼリンへ送り、現地で働くアメリカ人や現地人の手によって立派に墓が建てられました。遺族代表はそこに墓参に行くものです」（放送原文全掲）と御自分で放送なさったことを伺うなど大変有意義に楽しく過させていただきました。真紅の太陽が静かに水平線に沈んでゆく美しいワイキキ海岸を眺め乍ら、今朝見ることのできた鮮かな虹のかけ橋と言い、恰も本会の前途を祝福して下さっているようでお互い誠に有難く思いました。

マジュロ

8月12日（火）　ホノルル　晴曇

8月13日（水）　マジュロ　曇

早朝5時起床。6時バスにて空港に向う。8時15分、コンチネンタル航空ボーイング727便はホノルルを後にマーシャルに飛び立った。太平洋の美しい海の途中ジョンストン島で給油、水平線がなくなり上も下も真青の中約3時間。やがてマジュロ空港に着陸。途中日付変更線を越えたので、自動的に13日にスキップしていた。待望のマーシャルの土を踏んだ印象は『日本から約四千キロ米も離れた赤道直下の島によくもまア来たものだ』というところ。島の有力者を先頭に、多数の島の方々が手に手に美しいレイをもって出迎えて下さいましたが、今回のお膳立で一番ご苦労の多かった浮田会長のご人徳には改めて頭の下る思いでした。

タクシーやマイクロバス（何れも日本製だがかなり疲れている）に分乗して、それぞれのホテルに落付いた。イースタンゲートウェイホテルは如何にも南洋のホテルといった木造二階建でまアまアでしたが、マジュロホテルに宿泊した方々は、一部電灯や水道がなく、英霊を想い出し乍ら我慢したとか大変のようでした。

タクシーは25セント均一、アメリカ式スーパーマーケットには蚊取線香等日本の商品も多く又特に中年以上の方からは「こんにちは」と親しく声をかけられる等、当時の日本人が残した功績が今更乍ら偲ばれました。

マジュロでの第一夜は、現地の方々が、私達一行のために歓迎夕食会を催して下さいました。村一番の腕利きのコックを集めて、日本の味に苦心してご馳走を作って下さった由。島の女の人は色鮮かなロングドレスで、殆んどが同伴。そして私達のテーブルに適当に分散。彼らは素朴で、礼儀正しくレディファーストそして純真さが、滲みでていました。年配の人が通訳をして下さいましたが、まさに日本人の顔をしている可愛いい女性と話してビックリ。11人の子の母であったりして。

そのうちに当時の日本の軍歌や唱歌を島の方々と大合唱。何れも三番四番まで覚えていてこちらが顔負け。また若い学生5人衆のギターによる南洋の歌、コーラスは素晴らしいハーモニーで、和気藹々の中に時間が過ぎました。このような大歓迎を受けようとは、誰もが予想し得なかったこと、本当に楽しい親善交歓パーティーでした。

8月14日（木）　マジュロ　晴、曇

一時スコール

二班に分れ、希望者8人はマロエラップ環礁行、あとは残留。

残留組は島の具志さん、山村さんのご好意でチャーターされたマイクロバスとホンダシビックに分乗して、島の西方の景勝地ローラ岬までドライブで案内されました。

（ドライブ組）

岬に到着後海水浴をする者、散策を楽しむ者三々五々。透きとおった綺麗な海水を透して珊瑚の砂底にきらめく日の光の映像は、紺碧の水平線と薄桃色かかった白い砂浜、椰子の木、タコの木の緑にマッチして、まさに平和なこの世の楽園がここにと感嘆せずにはおられませんでした。戦争さえ無かったならば――と思ったのは私一人ではなかったと思います。又波打ち際の砂に埋もれている零戦の残骸に手を合せ勇敢に散って行った兵士のご冥福を心からお祈りした。

（マロエラップ組）

戦跡弔訪希望の8名は小型水陸両用機一機をチャーターしマロエラップ環礁のタロア島に飛んだ。紺碧の海の上を、低空でとんだので、左右の窓からは、椰子の葉茂る珊瑚礁の島々を眼下すぐ近くに見乍ら「赤い太陽の照る渚、リーフに砕ける波の音、太平洋の水鏡、椰子に抱かれた青い月」こんな詩を口ずさんでいた。やがて飛行機は更に高度を下げマロエラップ島を二、三回旋回して勇ましく水しぶきをあげて着水。会長がかつて世話になった島のカプテールさんの道案内、会長の説

マジュロ第一日目晩餐

墓参団に参加して(4)　桜代

○パーティーの　楽しき集い知己のごと
○懐しき　歌の数々　夜更けまで
○祖国恋う　二世の心　胸いたむ

明を聞き乍らコンクリート二階建の旧司令部跡に着いた。弾丸が屋上から貫通して地下までポッカリと大きな穴があいていた。折れまがった鉄筋は幾本も垂れ下っていた。このような空穴がいく箇所も痕跡をとどめ戦争の物凄さを物語っていた。弾丸でデコボコに曲った鉄板の階段を登り電信室跡に案内された。通信に使った部品が赤錆びてボロボロになり足の踏場もない程散乱していた。

更に危なかしい階段を屋上まで上り会長のお話を聞く。「8年前佐竹さんと来島の時は、船便の都合で、ここに二泊、月の明りを頼りに、遠くから水を運んで来て、日本から持参した米で白い御飯をたき、英霊にお供えし、お下りを、島民と一緒に御相伴をしました」とのこと。英霊を始め、久しぶりに口にした島民はどんなに喜んだことでせう。又しても当時のご苦労の程がしのばれました。椰子の巨木が、太陽の日ざしを浴びて、在りし日の激しい戦いの模様を語りかけている様でした。会長を先頭に砂浜へと足を運んだ。やがてジャングルに入り、道であるようなないような茂みを三、四十米も入ったでせうか「ここです」との会長の声に、前方に目をやると、引揚前63警備隊が建てた慰霊碑の両側のコンクリートが淋しげに建っていた。当時の模様を詳しく会長から伺いました。その近くに池のような水溜りがあった。海の水が入りこんで来ているのかと思ったら爆弾のため大きな穴があきそれに雨水等がたまっているのだとの説明であった。白い砂地でこの水を濾し、きれいになった水を英霊たちは不自由なく飲むことができるのだとホッとしました。お灯明を灯し、お線香をあげ、靖国神社から頂いて来た神饌を供え、お墓に跪いて合掌するとき、胸がこみあげてきて言葉にならなかった。同行の渋谷さんのご主人は、この碑に眠っておられるのだ。渋谷さんの有難い読経の声が静寂を破り流れた。英霊たちも肉親との対面に、安らかな眠りにつかれることでせう。再び機中の人となりマジュロ空港に帰着。

マロエラップ旧司令部二階屋上にて

マジュロ第二夜は、予期しなかった昨夜の心暖る歓迎の宴に応える為にも、皆もち合せの物を出し合って何かお返しをしようということなり、有志で話し合った結果、答礼スキヤキパーティーに決った。然しながら南海の珊瑚礁にそれを用意する材料があるのだろうか。幸運にも、偶然当地に逗留しているN貿易の平間さんの適切なアドバイスや、山村氏ご夫妻達の献身的なご協力を得て、鍋代りにアルミの入れ物、スーパーマーケットで、牛肉、馬鈴薯、卵、調味料等を見つけて来て何とか見透しも明るくなってきた。椰子の木影の砂浜にドラム缶の半分毀れた物で焜炉代り。木炭といって買って来た袋は豆炭だった。男性軍が椰子の枯葉等を燃やしても仲々火にならない。普段やりつけない手料理とは言え、兵隊時代の経験を活かして、皆で苦心惨憺何んとか鋤焼の匂いがして来た頃には、すっかり日が落ちて招待したお客様が薄暗いホテルの庭に、三々五々、芝生に座り出した。一方女性軍も、全員力を合わせ、おにぎりや、手作りの即席料理、一時は、準備だけで明朝までかかるのではないかと危ぶまれたパーティも、お客が大体揃った頃には、粗末乍ら心のこもった用意も出来上り、何んとか、開会に漕ぎつけられた。御案内は八年前の知己を生かして佐竹さんが各戸を廻ったので、多くの方々が華やかな正装で、昨日同様、同伴で来られ、夜遅くまで、途中スコールが何回かやって来たが、みなお構いなく、心ゆくまで楽しく過した。

鋤焼、おにぎりは何れも大好評でした。お互に気持も打ち解けて、昨夜以上に賑やかな雰囲気だった、沢山の歌の中でも、特に〝あの椰子の島〟のコーラスは深く私達の感銘するものとなり、水野さんの用意されたテープレコーダーに録音して帰り、後で、楽譜を参加者に配った次第です。もう自然に口づさむ程になった。永遠に私達の心に焼きついた国際親善交歓風景であった。英霊たちもさぞ、喜んで下さった事と思います。余韻つきない別れ難い

マジュロ第二日海岸での野外パーティー

お互ですが明日はいよいよ今回の目的クェゼリン本島の墓参を控えていることでもあり持って来た自分のハンカチ、薬、トランプ、ボールペン等を醵出し合って、心ばかりのプレゼントをした。『グッドバイ』『シーユアゲン』『グッドラック』等一人ずつ固い握手を交し乍ら別れて行った。

クェゼリン――慰霊行事

8月15日（金）　クェゼリン　晴

いよいよ今日は、待望のクェゼリン島墓参の日。奇しくも太平洋戦争終結の記念日に実現するとは。各自用意した喪服に身をつつみ、みな緊張した面持ちで朝の挨拶を交す。

マジュロ空港では、既に親しくなった島の人々多数が見送りに来てくれた。お別れに、花のレイや、貝殻の首飾り等をプレゼントしてくれ、惜別の念交々手を振り、再びコンチネンタル航空のB727で、十二時五分マジュロを飛び立った。十二時四十五分、遠く待ち望んだクェゼリン本島が見えて来た。海面すれすれに高度を下げ、波打ち際ぎりぎりの処から着陸。海面上一～二米の標高のこの島は、全島が飛行場並びに軍事施設となっていて、許可なければ降りられない処だが、予め手筈を整えていた為、飛行場には中田氏徳原氏等の出迎を受け、差し廻しの専用バスに直ちに乗り込み、島の北西部にある最終目的の慰霊碑に向った。飛行機の給油時間を特別に延長して、墓参時間は、倍の四十分にする等関係者の配慮もあり、お蔭様で現地慰霊が無事出来たこと、本当に有難く、何とお礼を申し上げてよいかわかりません。

慰霊碑は、青々とした芝生の中、綺麗に清掃してあり、生花が飾られ、白い柵に囲まれて、赤い鳥居には日本人墓地とはっきり書いてあった。

持参の花輪を飾り、お供物を供え、お燈明が灯され「あと十分間です」との声に、錯乱状態の如く各自夫々、正面から横から、或は後の方から跪き、合掌お経を唱える人、お話をする人。永年の念願がここに叶い、肉親の眠るこの地にきて、対面できた感激の一瞬であった。

子供と並んで合掌黙禱を捧げるうち、お燈明のゆらゆらゆれる中で主人の顔が朦朧と見えた、若い顔だ、私は話掛けた、「この子をおぶって、回覧板を持って隣組を廻ったっけが、その子がこんなに成長しました。そして今この子と一緒にお参りできるこの嬉しさ、私たちをお守り下さいまして、安らかにお眠り下さい」と顔を上げたら、フーッと遠くの方へ行ってしまいました。子供は幻の父に会い何を話し、お参りしたであろうか。今までの苦労も全部消え失せ、肩の荷がおりた感じです。お参りを済ませ、待機のバスに乗った。皆の顔は涙に濡れてクシャクシャだった。チェンバレンさん、中田さん達に見送られて、飛行機に戻り、他の乗客等関係者の協力に感謝し、再び訪れることがあるかどうか、私達の慰霊碑のあるクェゼリン島を後にした。

グァム――帰国

途中ポナペ島、トラック島にも立ち寄りましたが、こんな平和な椰子の茂る島に戦争などあったのだろうかと、不思議にも思われました。予定通り（16時16分）グァム着。第一ホテルに落付きました。墓参も終り、ホッとした気持で、もう日本に着いたような幸せな感じでした。グァムでの夕食会

墓参団に参加して(5)　桜代

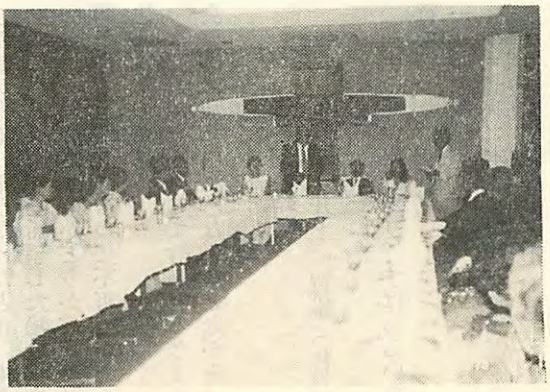
○汝の散りし　夏の孤島に
　　波と哭く
○守りませ　紺碧の海　白き砂
○盂蘭盆や
　　かんばせ胸に碑を洗い
○星見えぬ　空を仰ぎて
　　汝はいづく

墓参団に参加して(6)　桜代

ジーゴ墓地にて

○若人の　故国恋しか　泉湧き
○グァム桜　名残咲して
　　迎えけり
○会堂の　ステンドに映ゆ
　　マリア像

念願の墓参を了えて


ハイネ特別補佐官のメッセージ

は、サイパン島から飛行機で乗りつけて来られた、ドワイト・ハイネさん（8年前マーシャル州知事、現在太平洋諸島信託統治地域高等弁務官の特別補佐官）を交えての和やかなものでした。日本と違い静かなしかも上品な楽しいパーティーは学ぶところがあります。終ってから、マジュロやクェゼリンで頂いたお土産の分配をしましたが有難づくめでした。

8月16日（土）　グァム　晴

午前　島内観光、慰霊塔参拝、恋人岬、ラットストン公園、グァム大学、デ・マリヤ教会等。ガイドさんは中年のサイパン出身の男性で、特長のある日本語だが君が代、軍歌や、最近の流行歌を歌い、愛嬌があって、最終日にも有難い観光ができました。

免税品のショッピングも終り、お土産も揃ってグァム空港へ。予定通り19時15分グァム発のパンナムBジャンボで、世界一と言われる東京の綺麗な夜景を見下し乍ら羽田空港へ到着。一週間の素晴しい空の旅も無事終り、一人の落伍者もなく、目的を完全に果すことが出来本当に有難うございました。

墓参団に参加して(7)　桜代

○念願の　墓参果せり
　南風（はえ）にのり
○寄るべなき
　み霊よ永久（とわ）に安かれと

クェゼリン墓参団に参加して

副会長
東京都　佐藤　宗丕（弟）

心に残る印象

三十八年ぶりに訪れたマーシャル群島は、あの頃とさ程変っていなかった。海も空も椰子も昔のままで、あのはげしい戦闘の行われた所とはとても信じられぬほど。島の人々の明るい素直な性質も、私共を視るまなざしの温かさ、人なつこさも、全く昔のままであった。

変ったものと言えば、道路がよくなり小型タクシー（全部日本製）が次々と走ってくる位のことである。

あの頃は椰子の葉の屋根から雨水を樋でひいて貯水槽に溜めて飲料水としていたが、今回はホテルに水道があり、シャワーが使えたのは大きな驚きであった。聞けば、飛行場の滑走路の天水を地下貯水槽に貯え、全戸に水道をひいてあるとのこと。うまい水であった。

乱開発による自然破壊の弊害と、経済だけの傾斜高度成長に伴う公害に悩まされている日本から来て、明るい空、澄みきった海を見たとき、大自然の尊とさ、未開発のありがたさをしみじみ感じた。文化に程遠い原始のこの島が今の日本よりもはるかに文明的に思えた。

これらの美しい自然に加えて島の人々のあたたかい接遇に今回の墓参旅行中最高の悦びを味わったことであった。民族の血のつながりを意識してか、曽ての日本の教育のせいか、膚の色の同じせいか、ともあれ遠い親類一同が何十年ぶりかで古里に帰ってきたような気分になった。

本会が設立された昭和三十八年頃は勿論、つい二、三年前迄は夢としか思えなかった現地墓参が叶えられたのは、偏に浮田現会長個人の長年にわたるたゆみないお骨折のおかげであったことを、全会員に申上げたい。恐らく他の何人であっても不可能であったことと思うのは、本会設立の始めから役員として辛苦をともにし内実を知っているからである。

浮田会長の誠実なお人柄と熱意が現地軍司令官以下を動かして、異例の入域許可となり更に格別の便宜を与へられたのである。民間外交の好例として後世に残る成果をあげ得たのである。

私は幸に今回参加させて頂いて満ち足りた思いをしているが、只一つ、気がかりなことがある。

現在のクェゼリン島は、米陸軍が所管しているが、近く米空軍に所管替へとの噂がある。そうなったとき、本会会員の多くが墓参を希望した場合、今回のように許されるかどうか、甚だ疑問である。端的に言って不可能かとも思われるのである。

次回参加を期待しておられる多くの会員には甚だ申訳けないことながら。

常任幹事
東京都　井上　賀雄（長男）

一生の想い出であり、すばらしい旅行であった。

一、印象深かったこと

クェゼリン本島に於ける、慰霊碑にすがりつく肉親の姿。

二、楽しかったこと

マーシャルのマジュロで、島民との心が通じ合う、親善風景。

三、嬉しかったこと

①マーシャルは、戦後、日本人に代ってアメリカ人によって統治されていますが、日本をなつかしむ心が残っていて、今でも集っては、軍歌や昔の流行歌などを皆で歌っている由。今度もそれを二番三番迄、一緒に合唱した時は、亡き肉親もそうであったろうかと当時を連想し乍ら、しみじみと、心暖まる思いでした。

②島民の中には、日本の兵士が、最後の突撃をするのを目の辺りに見た人も居ましたが、その話の中で、日本の将来を他事（よそごと）と思えず深く心配している

のを聞き、身の引き締まる思いがしました。『日本人は、何故教育勅語を信奉することをやめたのか。あの中には大変良いことが書かれているのに』と残念がっていました。そして人口の半数が戦後生れと時代の変わる中で、その各徳目、孝行、友愛、信義、恭倹、博愛、公共への奉仕、順法精神等を、機会を作っては、島の若い人達に教えていると、淡々と話してくれました。

③日本の商品（特に自動車）が数多く活躍している情景。

四、その他

父たちが居た椰子の葉茂る美しい珊瑚環礁の海で、ほんの少しの時間でも泳ぐことのできたのは、言葉で表現できないすばらしい想い出です。

常任幹事
東京都　佐竹　エス（妻）

待ちに待ったクェゼリン島墓参、夢のような心地ですごし浦島太郎の竜宮城の現代版のようでした。何時も想像していた通り緑の芝生、タコの木の下で涼しさも添えられた慰霊碑が、東京で見た時と同じように少しの汚れも破損もなく慰霊碑の周囲の那智黒の小石が黒く輝いていました。墓前には現地の方々の心づくしの花輪も飾られていました。それに御遺骨と霊砂がお供へされています。霊砂は小さなビニール袋に入れてありました。これは羽田での出発の時見送りにいらっしゃった方からほんの少しでよいのですが墓地の霊砂を頂きたいと云われていたし、私もほしいので皆さんも同じ心だろうと思い浮田会長にもお話していましたら、ハワイで徳原夫人にクェゼリンにいらっしゃる主人から電話で墓参は短かい時間なので何かこちらで用意する事をしらせてほしいとの事なので、霊砂を用意して下さるようにお願いしたところ心よく引き受けてくださったのです。何時も乍らの心くばりが嬉しく思われました。

ルオット島の慰霊碑へも小さな花輪やお供物を一つの箱にまとめ、ルオット島への便がありましたらとお願いして来ましたら、先日会長宛にチェンバレン夫人が八月二十五日にルオット島へ墓参にわざわざ行かれたとお写真同封の便りを見せて頂きました。

三〇分間の墓参、何を語り何を告げたらよいかおろおろするばかり涙で目もかすみます。時間ですからと云われ後髪を引かれる思いで後を振り向き乍ら基地で特別に用意してくださった自動車に乗り飛行場に帰りました。機内では慰霊団のため特に時間を待って頂いた一般乗客のためにクェゼリン島の方々が冷たいジュースのサービスを用意してくださったり、私達にまでチョコレートと煙草のおやつを頂いたのです。このような心温まる人達が住み美しい自然の中に眠られる英霊、幸せのように思われました。本当に心が軽くなったような気持でした。

グァム島へ到着の時、御遺骨がとても重いのにお持ちになっているので、私が手押車でカバンを運んでいたのでカバンの上に乗せてくださいと云うと若い男性に荷物扱にしないでください僕がつれて帰りますと云われた事、嬉し涙で頬を濡しました。グァム島の一夜は若かった主人のにっこりした顔を夢見ていましたが、主人の息子の父の兄弟と暫く振りで皆さん夢に見たと話していました。三十年がつい昨日のように浮んできますとグァム島での観光は話もはずみました。

幹　事
香川県　秋山　正清（長男）

夢のように思っていた念願の現地墓参を果すことが出来て、万感胸に迫るものがあり、この感激は到底筆舌に尽し難く、只々感謝の外ありません。

一、印象の深かったこと

灼熱の太陽、紺碧の海、リーフに打寄せる白波、海岸線に並んだ椰子の木、閑静で清浄な墓地、其処に建てられた慰霊碑、この眼で、この足で確め、お参りして参りました。

故国から二、四〇〇哩の彼方、南海の孤島に静かに眠る英霊の御冥福を心からお祈り申し上げます。

そして私達遺族自身で建立したマーシャル諸島、ギルバート諸島、ナウル、オーシャンの慰霊碑が、全島米軍基地であるクェゼリン島の一隅、手入の行届いた墓地に、立派に維持されていた事は、現地で御世話下さる方々の真心の御奉仕と米軍当局の温い御援助の御蔭であると深く感謝すると共に、今後も永久に維持される事を切望する次第です。

米軍当局の御理解については、自国他国の別なく、その祖国に忠誠を尽くした者を敬う米国人の精神から発して居ると思いますが、日本の現状を顧みるとき本当に悲しい思いがします。

二、嬉しかった事

マジュロ島における島民の熱烈な大歓迎は全く予期していなかったことで、涙が出る程嬉しく、大変感動致しました。戦後30年も経って居りますのに、あの方々が曽ての日本に寄せる思慕と好意に戸惑い驚きました。

これは私なりの考えですが、曽ての委任統治領の頃、良い意味での統治が適切であり、島民を可愛がり、島民の心をつかんでいたことと、民間人も島に骨を埋めるつもりで島民と融和していた為であろうと思います。要するに私達の先輩は偉かったと痛感しました。

現在国連の信託統治領として米国に統治権が委任されて居るミクロネシアは、将来米国の自治領になるか、独立するか、その帰属問題はミクロネシア議会で論ぜられて居る由ですが、（マ

リアナ諸島の米の自治領化は住民投票の結果と聞きました）、私達日本人も曽ての同胞のために出来る限りの事をしてあげなければと思います。

三、その他

顧りみますのに今回の墓参成功の偉業は一朝一夕になったものでなく、本会創立以来の努力、実績が実を結んだものと考えます。特に浮田会長を中心とした役員一同の没我的の御努力、現地の方々の心からの御協力、代々の米軍当局の御理解、御厚意そして会員全員の協力その何れを欠いても、実現し得なかった事でしょう。そして背後には目に見えない英霊のお導きのあったことを確信致します。

幹　事
東京都　高林　芳夫（長男）

三十年来の念願でありました現地墓参が叶えられこんな嬉しい事はありません。この遺族会をここまで支え育てられた会長様はじめ、多くの方々の御努力に深く感謝致しております。現地慰霊は今回限りのものとせず今後も会がある限り続けていかなければならないと思います。クェゼリン島の関係者の方々はもちろんの事、今回大変御世話になりましたマジュロの島民の方々等と英霊の慰霊を通して現在に生きている人間同志としての御つきあいも大切に育てていきたいと願っております。旅行中は8㎜を担当させていただきカメラを通しての記録も頭の中に印象強く焼きついております。

東京都　荒木　常子（長女）

思っても見なかったクェゼリン墓参が実現し、それに参加出来たという事だけでも言葉にいい現せない感激と喜びでしたのに特に今回訪問の地区は、海軍の技術者でありました父が、それこそ私の生まれる前から一年の半分をそこで暮した私共遺族としては由緒深い地でありました。かって父の写真で見ていた椰子の木の下に立っただけで、もう涙があふれてくる思いがいたしました。ポナペ、トラック島も何度も足跡を残した島であり、その土を一時なりと踏めた事も大変な喜びであり感激でございました。又叔父（佃）も留守勝の父に代り幼い頃の私を可愛がってくれた私にとってかけがえのない人でありましたため、今回の墓参には亡き父も叔父もさぞ喜んでくれたことと思っております。それに加えて、現地を見る為に立寄るのだとのみ思って居りましたマジュロで、全く予期しなかった島民の方々の大歓迎を受けた事も墓参りは又別の意味で大変な感激でした。生前父がとりわけ多くの足跡を残した南洋の島でその島民の方々と二晩にもわたり親しく交歓出来た事、これは生涯を通じて忘れ得ぬ出来事だったと思って居ります。椰子の木蔭、父が間に立って話しかけてくれている様にさへ思いました。

又、もう一つ嬉しかった事は、マジュロは勿論、グァムのガイドさんの言葉からも、現地の人達の一部が昔の日本に寄せる暖い気持を感じとれた事も心温まる事でした。

いろいろの御意見もあったようでしたが、私にはその途中に加えられた、ハワイ、グァムの観光も、とても良い想い出となって居ります。

神奈川県　安藤　サヨ

タラップのすぐ近くに、米軍が予め用意して下さったバスが待っていました。待ち構えたビーバーさんと中田さんのお指図で一行が乗り終ると、バスはすぐ目指す日本人墓地に向いました。窓外の様子を眺める余裕もなく三、四分、写真ではお馴染みの赤い鳥居の前に停車。降る時間ももどかしく、ハッと胸を打たれました。立派な慰霊碑が目に入ったのです。

七年前、昭和43年8月、浮田現会長のお供をして、浮田夫人、佐竹幹事と私の四人、明正交易起業㈱の横浜山下倉庫にゆき、送り出し直前の慰霊碑最後の梱包作業を手伝いました。私達の仕事は、戦歿者全員の霊璽や肉親による手紙、家族の写真など胎内に納め、これをセメントで固めることでした。あたかも遺体の納棺と同じ気持、長い船路を傾かないよう又建立終ったあと永久に湿気の入らないようセメントを、丹念に撫でながら塡充いたしました。半日かかった仕事でした。この間この手で撫で廻し、見どおした碑、末永く傷をしないよう祈り通した碑、それが、そのままこのクェゼリンの広々した霊地に泰然として据えつけてあるのをこの眼で見たのです。

「よかったですね」と心の中で叫びました。五日前ハワイでお参りした国立記念墓地と全く同じように、隅から隅まで清掃され、タコの大木の下、大きく育った浜木綿、綺麗に刈られた芝生そして島の方々によって供えられた花輪、お供物、私の肉親もこのようなところに祀られるのだったらといささかの羨しさもありました。

三、四十分の後いよいよお訣れのときには一行が日本から持参した花輪やお供物が山と積まれ、一層荘厳、豪華な墓地風景でした。どうかこのまま静かにお眠り下さいませと祈って帰りのバスに乗りました。飛行機につくまで無言のまま。

埼玉県　池田徳太郎（弟）

故国を何千粁はなれた南海の孤島に

淋しく眠る幾千の英霊と、繁栄の中に人間性まで失いかけてそれに酔っている様な人々、三十年と言う時間がこれ程人間を変えてしまうのかと思った。

墓前に立ちあの人達の心情を唯一言長い間御苦労様でしたと涙乍らに祈り戦争の是非は別としても平和と祖国の繁栄を信じて戦い、何のうたがいもなく散って行ったことに対し何時までも現地訪問慰霊等の行事を続けて行く事が、国や残された国民の務めだと言うことを強く感じた。

真に平和と繁栄の恩恵を受け続ける意義を私はそこに見つけた様に感じます。

静岡県　遠藤　清巳（弟）

会長にはご高令による肉体的御疲労はもとより、それにもまして、多数の会員、特に御婦人の多い団体の全責任者として、精神的な面でのお疲れが大変であったろうと存じます。

しかし諸事遺漏も、事故もなく、当初の計画通り完遂されました事は、綿密周到な計画を樹てられた会長はじめ役員諸賢の人格、御努力の賜物と、心から厚く御礼申し上げます。

帰国後早速御礼の御手紙をと思っておりましたが、写真を同時にお送り致したため、本日まで遅れてしまったのを、どうぞお許し下さい。

尚同封いたしました写真、氏名不詳の方のですが、おついでの折さし上げていただければ幸甚に存じます。

山口県　小住　龍（妻）

今回は30年来の希望を叶えて下ったのでここ迄に至る会長のお骨折を察し、感謝の気持を、どう表現すれば良いのか困ってしまう私でした。

マジュロ島で、島民の方々が私達に寄せられた数々のご好意は、この方面でのかっての日本人特に祖国の楯となり散華された私達肉親の島民に対する態度が美しかった事、立派な心の持主が多かったと思うと、身はマーシャルに亡ぶとも、心は島民に蘇って、祖国を守って下さるのだろうという事が私の一番嬉しい事でした。

又グァムではサイパン生れで日本の師範学校出身の先生に教育を受けたというガイドさんの日本人顔負けの物の考え方、態度には深く感激し、教育の如何に大切であるかを痛感しました。

然し何といっても書かねばならない、否、書かずにはおられない事は、クェゼリンでの事柄です。

31年間描き続け、幾度か夢にも見た島に上陸できたのです。アメリカの基地なのに、その上寄せられた好意には感謝しています。

とは言え、肉親をこの島で失ったいやこの舗装の下の土の中に我等の親は夫は兄弟は、その肉体を埋めているのだと思うと胸がふさがり、ペンは釘づけされて一行も進まないのです。そこで、私はその日の日記の一節をしたためさせて頂くことにしました。

八月十五日　晴

飛行機は十一時過ぎ予定通りマジュロよりクェゼリンにむかう。昨夜の雨もすっかりはれて、今日はいよいよ目的地クェゼリンに墓参のできるよい日となった。座席が窓側から離れていて先日ホノルルからマジュロまでの時のように、海の神秘が見られなかったが想像は十分できた。暫くすると窓から見事な雲海が見えはじめた。機は太平洋の真只中を二七九kmの北西にむかって進んでいる。永い間実に三十一年の永年待った夫への無言の対面の時が、一刻々々と近づいているのだ。言いようのない感慨にむせびつつ……。

先程までの雲海は、いつの間にかすっかり消えて、左右共、窓には輝く光のみが満ち満ちていた。こんな状態が数分も続いたろうか。再び雲海が美しくその底に薄水色のものを漂わせている。

機はやがて高度を下げていった。クェゼリンはマジュロと違って椰子も少く、殆どが舗装されていた。

飛行機から降りるとバスが迎えに来ていた。司令部のあった位置はどのあたりだろうかと思いながら、悲しい想いで窓外を眺めていると、間もなく、「日本人墓地」と書かれた朱の小さい鳥居のある所へ車はとまった。

車から降りると、準備していた袴を遺骨の埋められている石畳の上におき般若心経の写経をおいて、嫁入り前、母が買ってくれたさんごの数珠を出して合掌した。次々にあふれ出る涙は、とぎれなく、我慢しきれず、31年間の胸のいたみが嗚咽となって迸り出てしまった。夢で袴を出して呉れと云い、その袴をはいて出て行った夫の後姿を今もありありと眼前に描きつつ去り難い想いだった。たった一人で、ここにいつまでもいたかった。

しかし墓標は、アメリカの基地の真只中だ。尽きぬ想いをのこして、後髪を引かれる想いでまた車の人となった。

夫のあしあとの残った土を、自分も踏んで歩いてみたかった。舗装されていない昔のままの土がほしかった。しかしそれは慾ばりすぎることだろうか。ともあれ、戦いに敗れ、物力尽きて自決しなければならなかったわが夫の最期の地を訪れることができたことは感謝しなければならない。

亡き人たちにとっては、かつての敵のミサイル基地の真只中で眠っている夫を想って、今日程敗戦のみじめさを感じたことはない。

栃木県　大橋　サク（妻）

○夢にまで見た島　（感謝）

行くことなど夢にも出来ないと思った島……会長様の情熱をもっての御努力は遂に希望者全員の墓参まで実現できました。この喜びは何と感謝をしてよいか言葉もございません。

○日本人の墓地　（感激）

最後のタラップを降りた。夫が戦死を遂げたクェゼリン島の地に今ついたのである。米軍が予め用意して下さったバスに乗った。三、四分走った窓の外に「日本人墓地」と書かれた朱塗りの鳥居が見えた。「ああ、あの墓地の中に……」。私は心の中でそう叫んだ。あついものが胸にこみ上げて来た。

○ライターの火　（感謝）

墓前に近づくと「参詣時間は三十分です」と、どなたかの声がした。私は日本から持って来た線香に火をつけようとマッチを持った。その時静かに目の前にライターの火が出された。多分クェゼリン島にお住いの方と思われた。私は三十分という時間に何となく気持があせり、そのご厚意に甘え線香を焔の上にかざした。あわてているのか、火はなかなか線香にうつらなかった。その方は手のひらで火をおおい風をよけて下さった。

南の島の風にライターの火は、かき消されそうになる。更に優しい女の方の手が外側をおおった。ライターの火は赤く燃え出し線香をもつ私にもその熱さは伝った。ましてライターの火をおおう手のひらは、焼けつくような熱さではないだろうか。申訳けない。

「あついのに申訳けございません」という私に「いいえ大丈夫です」とこのような返事がもどって来た。

何分たったでしょう。やっと線香からやわらかい煙が出はじめた。ライターの火は消された。

私は他国でこのような厚意をうけたことを感謝しながら、墓前に跪いた。その時まだお礼を申しあげなかったことを思い出しはっとして立ち上った。その方の姿はもう見えなかった。私は自分の事ばかり考えていたことが、とても恥かしかった。同時にさり気なく厚意を示して下さったお気持に頭の下る思いがした。

私にはあのライターの火が何時迄も消えることなく心に残ることでしょう。

神奈川県　大槻とき子（姉）

長い間の念願が叶ってほっとした気持で居ります。三十年前私達の肉親が国の安泰を信じて悲壮な最後をとげた地を見届ける迄はと頑張って来ましたが案外早く墓参が出来て大きな大きな喜びを感じています。比の度の感想をとの会長様のお言葉ですが行く先々でのいろいろな予期せぬ事共に会って嬉しかったり有難かったり沢山ありすぎてどうまとめたらいいか分りません。それで唯一つ丈。島がミサイル基地の為、詮方もない事ですが墓参は僅か二十分程でした。時間が来て帰らなければなりません。いつまでもいつまでもそばに居てやりたいと思いは一ぱいですが、それは許されない事です。それで魂があったらついて帰れと念じ乍ら車に乗りました。せめて一時間程心行く迄、お経を上げてやりたいと思いましたが、この時程辛い思いをしたことはありませんでした。

四つの花輪が供えられた中にただ一つ淋しく立つ墓碑を囲んでみんな涙して佇んだあの日を私は今迄のどの事よりも忘れません。短い時間ではありましたが墓参が出来たのです。今度の事について好意を以て御協力下さった遠近の方々全部とあのマジュロでの思はぬ歓迎をして頂いたことに心から感謝して居ります。そして遺族会結成以来なみなみならぬ御苦労をなされた、会長様始め幹部の方に深く深く感謝して止みません。

神奈川県　片山　計（弟）

三十年余の星霜、幼い日に誓ったクェゼリンへの道は、長年に亘る数多くの方達の地味な尽力が積み重なって、遂にその実現をみた。

高鳴る胸を押さえることが出来ない儘、ハワイ―ジョンストン―マジュロと近まりつつあるクェゼリン！　そしていよいよ八月十五日。

遠い雲間、コバルト色の海に浮ぶ美しい珊瑚礁のクェゼリンを発見した一瞬は、生命ある限り脳裏から去ることがないでしょう。島その第一歩、タラップを降りる足から力が抜けていくようだった。飛行機を延発していよいよ墓参、タコの木蔭にある墓地は綺麗に清掃され仲々涼しそうでした。

あれもこれも報告しようと思いつつ、墓地では「兄さん、やっと約束が果たせたね。母さん（律気な母は奇しくも今年の二月他界）をつれて来たのでこれからは淋しい思いをしないですむよ」と言葉にするのがやっとで、再会の日があるだろうかと心を後に離陸となって了った。

目的を一つにした一週間の旅に、幾多の感銘と人間の絆、人情の美しさを改めて学んだ気がいたします。

積年の夢を果した現在、戦争の後遺症の区切りをつけ得たとも思えるし、今後については心の整理がついておりません。

最后にマジュロ島民の暖い心の歓迎とクェゼリン島日系の方々の暖いご奉仕に感謝の意を表します。

長野県　神田　環（長男）

私は父を亡くしてから戦後処理とか戦争を思い出す事は悲しみが先になるものですからどうしても忘れようと思っておりましたが、今度の墓参を契機に私の心もはっきりしました。

そして持帰ったクェゼリンの砂を母とともに父の墓に供えました。そして私はこれからもっともっと日本人として戦争というものは何であったか、一般ジャーナリストは原因原因と追究して戦後三十年の特集を読むとき、あまりにも現地の状態を知らず腹が立ちます。そしてグァム島の日本人墓地に参拝する人が少ないと聞き、私は会員の中で若いといわれ、その若い人たちに本当の戦争を教え平和を信じている日本人にこの尊き犠牲をはらった我々の肉親の努力を後世に伝える方法に努力する事が遠い祖国を離れ、永眠している英霊に対しても義務があると悟りました。今後も会の発展のため私も出来る事はお手伝いいたします。

東京都　木下　満子（長女）

私達母娘は本会のあることを昨秋初めて知り、今春入会させて頂きましたが、現地訪問という30年来の念願がこんなに早く叶えられることになり、何と運の良い事かと嬉しく思います。

クェゼリンという南の島を想像して私達はどんなにか行って見たいと思い続けてきたことでしょう。クェゼリン島に自分の足で立ってみて、この島に、31年前まで、父が横須賀からはるばる航海して来ていたのかと思い感慨無量でした。しかし僅か30分間の墓参では報告したいと思っていたことの総てを語り尽くすことは出来なかったし、父が眠っていると聞いた西側の無人島を確認することも出来ませんでしたがかつて父が踏んだクェゼリン島の土をこの足で踏みしめたことで満足し胸のつかえが下ったように最近は気持が軽くなったように感じています。

会長をはじめ皆様の御尽力で一生の願いとも思っておりました現地墓参の夢が実現できまして心から感謝致しております。

新潟県　渋谷セキノ（妻）

今回の現地墓参旅行は何処へ行っても印象深い所ばかりでした。特に私は、私達の訪れた限り、外地にある日本人墓地が、何処も綺麗に清掃され、生き生きしたお花がお供えしてあったことが一番印象に残りました。

○南の島　現地の人々の温かい素朴な心に触れ、身も心も、洗い清められたような気が致しました。私達日本人をあんなに慕い、懐しんで下さる島の人達、お金も労力も惜しまず尽して下さる心、これもみな会長様のお人柄の賜と有難く思いました。

○マロエラップ島　マジュロ島二日目には八人乗水上機でマロエラップ島に御案内下さりお礼の言葉もございません。会長さんが八年前にも又一昨年もお会いになったというカプテールさんが飛行機を見るため集って来た人々の中におられ進んで道案内をして下さいました。

空から見た紺碧の海に浮ぶ静かな島、そして主人の最後の地「マロエラップ島、30年前から主人が、この島にいたのかと思うと、懐しさで瞼が熱くなり、同じ土を、同じ砂を、今自分が踏んでいる。夢ではない。現実なのだ。この感激到底言葉でいい表わせません。

○戦跡を尋ね、戦の酷しさを忍び、霊安かれと祈る読経も涙に消え、お明りを捧げる手許は震えました。

英霊の招き、会長様はじめ皆様のお蔭と厚く御礼申上げます。

マジュロでの温い純情、グァム島バスガイドの説明に涙を流し、主人の出征を思い、反面いまの日本の若者の姿、総て他国で得た貴い経験である。

クェゼリン墓地での諸準備、袋入りの霊砂、氏名判明の御遺骨等何から何まで大変だったと思います。僅かな時間とはいえ、私共が現地墓前で流した涙は生涯忘れず英霊の冥福を祈りたいと思います。

○マジュロでの二日間は生涯忘れられません。到着した当夜の大晩餐会、君ケ代の合唱、翌日夜一行全員で力を合せ調理した料理による招待、なごやかなひとときや或は唱い或は踊りサヨナラお元気でと別れの握手には涙がこみ上げました。

○走馬灯のように浮び上る想い出、私達でなく本会全員が御経験いただいたらと祈らずにいられません。

福岡県　下釜　春江（妻）

待望の現地墓参が叶い感激も一入でございました。その節は会長様はじめ皆様に大変お世話になりました。お蔭様で想い出多い墓参、旅行が出来ました事を感謝し本当に有難うございました。

帰られてからお体を損ねられたこと又現地での御苦労や大願成就の安堵からお疲れになられたのではないでしょうか。呉々もご自愛下さいますよう御祈り致します。末筆乍ら奥様によろしくお伝え下さいませ。

東京都　白井まさ子（妻）

昭和38年6月29日マーシャル群島遺

族会が発足してから今日まで、浮田現会長の十年余に亘るたゆみない努力が実現してクェゼリンの日本人墓地にお詣り出来ました事は、戦後私の人生の履歴書に書き添える事の一番嬉しかった事と言えます。

若しクェゼリン島墓参が叶えられない時にはと思い三年間グァム、サイパン、パラオ等と南の島に渡り、あれは軍艦島あれが長崎、広島に落した原爆機の基地テニヤン島等の説明を聞きながら、はるか地平線の彼方にあるクェゼリン島に向って冥福を祈って参りました。

今回ハワイ経由で8月15日クェゼリン島に36名の遺族の方々と墓前にぬかづいた時、在りし日の事、未亡人という十字架を背負って夢中で生きた自分の事、二人の息子、嫁孫知人と走馬灯のように涙の中で全身をよぎりましたがそれらを胸を張って報告出来た事で30有余年の労苦がすっかり洗い落されました。〃霊よ〃異郷の地ではありますが四〇〇〇名の同胞と共に安らかに眠って下さい。

我れ今は三十余とせも生きのびて
たくましき吾子の姿見せたし

東京都　高橋　功（次男）

ハワイから約四時間マジュロに着きました。空港は殺風景で滑走路と小さな建物があるだけです。我々の来島が知らされていたせいか、大歓迎を受けました。一度にこんなに多勢の日本人はめずらしかったのでしょう。一人一人にレイをかけて歓迎して下さいました。第一印象は子供が多いなということでした。

マジュロでの第一夜は思いがけなく、我々の歓迎パーティがレストランで開かれました。二、三人づつテーブルにつき、現地の人達との交歓会です。四十五才以上の人は大体日本語が話せると聞いて安心しました。言葉が通じることは、実にありがたいことです。どのテーブルにも、にぎやかな歓談が続きました。マジュロでは許可を得なければでお酒は飲めないことになっており、この日はジュースでした。パーティが時間と共にもりあがり、合唱が始りました。童謡、軍歌、小学唱歌など、実に上手に歌ってくれたのです。彼等は、何かにつけて歌う習慣があるらしく、混声四部合唱でハーモニーが素晴らしいのです。我々も歌ったのですが、歌詞がはっきり思い出せずに、しり切れトンボになってしまい、全く情なく思いました。十時、パーティーもお開らきになりお土産も沢山頂きました。

第二日は答礼のパーティをホテルの庭で開きました。食事の準備は、我々全員でやりました。スキヤキとおにぎりが大変な売れ行きでした。昨夜の顔見知りの人達が来て下さりすっかりうちとけて話題が一層ひろがりました。

日本人は素晴らしい、日本の品物は安くて良い、特に自動車は最高とのことでした。なるほど、ほとんど日本車ばかりでした。お互いの気持が通じ合ったせいか、昨夜に増して、いっそう盛り上りました。彼等の心は全く純粋そのものだと思いました。何よりも心のふれあいが大切であり、利己的な考えは捨てなければならないということを強く感じました。昨夜に続いて歌の交歓会が時の過すのも忘れる程続き、又踊りも披露されました。

11時を過ぎても仲々立ち去ろうとしません。彼等は一晩中こうしていることが平気なのだそうです。我々は明日は目的の墓参があることから、別れをおしみつつお別れしました。昨夜のお返しとして、我々のプレゼントを贈りました。特別に用意したものはないので、それぞれの手持の中から贈ることにしました。私はトランプとメジャーを贈りました。日本的な品物を持って行けば良かったと思いました。花札の方が良いなどと申されました。

マジュロでの二日間にわたるパーティは、何よりも楽しかったこととして心の奥に残っています。「あのヤシの島の歌」が今も耳もとに残っています。

外国の人達と付き合うには心と心のふれあいしかないと感じました。ここでは旅の恥はかき捨では許されない事です。その土地へ行ったら、習慣、環境に合せて行動する事がお互いに理解する為に欠かせないものだと思いました。我々がこんなに歓迎されたのはどうしてだろうと考へてみました。マジュロの人達が日本へ来たら、我々はどんなことが出来るだろうと考えてもみました。長年にわたり友情を育ててきたからこそではないかと理解しました。本当の友情はむしろこれからだと、強く感じています。何時までも忘れないでいたい。行く機会があったらまた行きたい。

東京都　佃　喜美（妻）

折あらば南太平洋に亡き人の跡を弔いたいと念願して三十年、漸くその機会に恵まれました事は私の最も大きな喜びでございました。大地に種子を蒔き肥料をほどこして立派な苗木を育てるように、過去何回かの御渡航により筆舌に尽し難い御苦労を重ねながらこの機会をお作り下さいました浮田会長様ならびに佐竹様、御関係の皆々様に、改めて深く感謝の意を捧げる次第でございます。又現地要路の方々、島民の皆様方の温い御援助や御協力も決して忘れてはならないと思います。

特に今回のマジュロ島民の皆様との交歓は本当に楽しいものでした。私達が既に忘れ去ろうとしている小学唱歌

の数々を、美事なハーモニィで歌って下さった時、暗闇の中でホロホロと涙が頬を伝ったのも今は懐かしい想い出です。只願わくはクェゼリン島における墓参にもう少しの時間を与えられたならばと残念に存じますが、これも今後私共の努力により、解決できる日が来るものと信じております。因難ではございましょうがこれから会の仕事の一ツとして御推進いただけますようお願いして拙ない文を終ります。

長崎県　松尾　フサ（妻）

今年のお盆（当地は新の8月15日がお盆です）は、永い間の念願の墓参が叶い本当に良いお盆でした。墓参そして全員無事に帰れました事は多くのご英霊の加護に寄ることは申すまでもございませんが、会長様御夫妻はじめ、御世話下さった多くの方々の御蔭と御礼の言葉もございません。

色々のむづかしい条件の中であの墓碑を、あの場所に建てて下さった御苦労が身に泌みて判りました。改めて厚く厚く御礼申し上げます。

当地に帰りましたときは、長女（横浜から）と次男の嫁（東京から）が二人づつ孫をつれて来ており家は大さわぎでしたが、今日は皆帰り静かになりました。そして今墓参旅行のことなど思い返しております。このためご挨拶がおくれすみません。

長男（姫路）の子を合せ孫が七人。夫出征後11ヵ月、昭和18年10月に生れた次女も昨年市教育委員会事務を退職しましたので仕事の心配もなく、ゆっくりした気持で墓参に参加できました。当時9、6、3、0才の子供を頼むと言い残して征った言葉を忘れられず三十年が過ぎてしまいました。

そして今、何となくすつかり落付いた気持になりました。ありがとうございました。あの美しい珊瑚礁のあちこちに残る悲しい戦のあと、そして私共同じ血の通う、ハワイやマジュロの方々との、思いもよらなかった和やかな集い、皆様のニコニコしたお顔、すばらしい大合唱の一方、マジュロ空港出発のとき山村要様が「涙もろくて、いろいろお話できませんでしたが、もし様子がわかったら……」と言われたお言葉は戦後30年いろいろの出来事が含まれているようで今なお忘れられない事、真珠湾で錆びたマストを洗う波を見ていましたとき、ポッンと浮いてきた油がその波にゆられて拡がってゆきました。その中に今なお眠られる多くのご遺骨、偶然五月に江田島の参考館で拝見した特殊潜航艇など。戦争の惨禍そして今日の幸が複雑に頭の中をかけめぐりました。

来年の2月6日は是非上京、靖国神社でお会いしたいと思って居ります。

（編集人から。山村様のお話は次号にのせさせていただきました）

山梨県　望月とよ子（妻）

永年の念願が叶い、現地墓参のお許しが出たとの通知を頂いたとき夢ではないかと何回も読み直しました。本当に良かったの一言です。

第一日目のハワイでの夜は晩餐を通じ本会が今日に至る迄の外地からのご協力そしてこの度の旅行までの会長様始め役員様のお骨折と温いお心遣い身に泌みお礼の言葉がありません。

第二の訪問地マジュロでは島民の方々の蔭のお力お骨折、日本語のお上手なこと又古い日本の歌をよく覚えておられ又嬉しげにお唱い下さったこと、そしておそく迄心からのお話しに興じたことも幸せでした。

第三のクェゼリンでは着くなり米軍が準備した自動車に迎えられ、現地についたときは何も彼も忘れて墓前へ一足でも早くと30年振りの対面をしましたが、いざとなると胸が一ぱいで何から話してよいやら唯涙あるのみです。心の内で話せるだけ話しました。碑の本体は申すまでもなく、敷石の一個にしても日本から運んで来たものだと思うと一入感の深いものがあります。本当に来てよかった。どんなことがあっても、今日のため、今まであったのですから。定められた時間故に心を後にのこして帰って来ましたが、この気持は一生忘れることはできないでせう。

もう一つの収穫は和やかな一週間から皆様をとても身近に感じ、急に親しく、お近づきいただけたことです。帰って長岡の反省会では今までにない人の和を感じました。

長崎県　前田　フサ（妻）

私郷里の方に行って居りましたら留守中二通御便りが来て居りました。

御返事がおそくなりましたこと御許し下さいませ。現地墓前でのこと、色々とくわしく御知らせ頂きましてありがとうございました。

現地の皆々様から、ほんとうによくして頂きました事は、先づ会長様の御人柄、御人徳によるものと思います。そのおかげで、私共迄、想像もしなかったいろんなよい目にあって、無事墓参をすませました。ほんとうにありがとうございました。

静岡県で、反省会をなさるそうですが、9月21日は、家事の都合で、どうしても参加できず、勝手ですが、皆様によろしくお願い申しあげます。

帰りの車中で、松尾さんと何度も繰り返した事ですが、本当にこの会は有難いですネと。二人とも何も意見はございません。ただ感謝あるのみです。

クェゼリン島墓参のことは申すまで

もありませんが、その他で一番印象深かったことは、空から見下ろした南太平洋の海の色、島々が神秘的で、とても素晴らしかった事、又マジュロ島の人々との、あの晩餐の情景、島の人達のコーラス。ロマンの歌ですのに、なぜか何とも言えない哀愁を含んだ調べには心奪はれ聞き入りました。時々フッと、マジュロの方々の顔が脳裏に浮んで参ります。どうかお幸せにお暮し下さいと祈らずには居られません。数多く楽しかったこと、嬉しかったことがありましたが、最も印象に残っているのは以上の事です。

ただ私共個人で失敗だったと思った事は、チッキにするカバンが小さかったと反省しています。もう少し大きいのを持参した方が良かったと思いました。大きくても始終持ち歩くのではなし、何しろ重くてはと云ってできるだけ小さいのにしましたが、帰りには荷物が増え、カバンには入れ切れず、手荷物がかさばり困りました。おかしな事ですが、とうとう東京に着いてから二人ともカバンを買ったようなわけです。それに小さいカバンだと鍵もそれに見合った小さいでせう。だから私の様に目の不自由な者は、税関の所でいつも、モタモタしていらいらしました。

こんなヘマな事、参考にはなりませんでしょうが……念のために。

その他の事は私共では考えも及びません。どうかよろしく御願い申し上げる次第でございます。

愛知県　山田　あき（妻）

此度私は病院を退職致しましたので墓参に参加することで出来ました。

毎年二月六日の慰霊祭のとき、会長さんから、いつもクェゼリン島のお話を伺いました。暑い暑い常夏の島、そして祖国より遠く離れたあの島、クェゼリン島の思いはいつも玉砕のあった島、一度でよいから行ってみたい、主人の霊に会いたい一心でした。戦後三十年の年月が過ぎ、ようやく会長さんより墓参に行かれると云う知らせがあり、ああこれで待望の念願を叶へられ、墓参に行かれるのだと思い夢のようでした。出発は8月10日ときまりました。出発の日が待遠しくて、子供のように嬉しかったこと！　そして出発の日が来て、一路羽田から本国を後にしました。

ハワイ島、マジュロ島、そしてなつかしの待ちに待った待望の島が青い美しい海の中よりポカリと浮き出て見えてきました。正しく環礁、と心の内でさけびました。クェゼリン島の大地、夢に見た此の島、此の土、此の目で、足で、一歩々々歩きました。ああ此の島の土の上で主人は玉砕したのかと涙が雨のようにこぼれ落ちるのでした。

碑に近づいた時、英霊もどんなにか此の日の来るのを待ちわびていたことでしょう。土の下で感謝していて下さったと思います。

碑前対面の時間の余りにも短かったこと、ありし日（軍隊）の面会時間と同じでありましたわね……と心の内で思いました。又胸が一ぱいになり涙が止りませんでした。私は時間のある限り、此の島の英霊に対し安らかに眠って下さるようにと経本を読み続けて参りました。経本を読み終りました時は早や、此の島に別れをつげなければなりませんでした。又少しでも見落しのないように、くまなく私の目に島々の影を刻みつけて参りました。今は戦がなかったかのように静かな美しい海にかこまれています。

又、マジュロ島の島民の方々には大変お世話になりましたこと、心から感謝致してやみません。それに此の島ならでは味わうことの出来ない南国の果物や、ヤシの木、又、主人の最後の写真を送って来ましたが、此の南国の『ヤシ』の木の下で撮っていたのです。一層なつかしく、主人と共に語り合ったような気持でした。ほんとうに墓参に参加してよかったと思いました。

念願が叶って墓参が出来ましたのも会長、副会長様初め役員の方々の御苦労の賜と存じ、感謝致しまして私のつたない文を終りにさせて頂きます。

埼玉県　山下　みつ（妻）

此度は主人が永遠に眠る「クェゼリン島墓参」に参加させて戴き有難うございました。年を取ると物分りが悪くなり動作が鈍く其の上乗り物に余り強くない私なので、心配しておりましたが特別の事も無く、皆様方の暖かい友情に支えられ、何時か現地に行かれたら海中になりともお花を捧げさせて頂きその霊をお慰めしたいという、長年の我が家の希望が叶えられました。クェゼリン島日本人墓地の御霊前に跪（ひざまず）けば押し寄せてくるものは只涙ばかりでした。「長い年月墓参の願いが叶えられず御無沙汰致しました。遠い南方の地から私達をお守り下さいまして有難うございました」と御礼をのべ今後も家族の健康を念じ上げる気持でお願いしました。墓参の前後は観光を兼ねた楽しい旅行、それが初めての地、これ又有がたいことでございました。

環礁ミレー抄(13)

成宮芳三郎

みどり失せ
ただに真白き
島なりき
激しき戦
終りてみれば

（元第66警ミレー軍医長）

墓参後のクェゼリン

チェンバレン・和子

第一信（8月31日認）

再三お手紙頂き乍ら御報告大変遅れ申訳けありません。15日からお便り書き始め休んでは書き今日になりました。

お墓参り、僅かの時間で、皆様さぞかしお心残りであった事とお察し致します。しかし英霊のおみたまはお元気なご家族のお姿に接し、今なお亡き同胞を心に刻んでおいでのことをどんなにか御喜びなさったことでせう。

お供えの品々でき得ればあのままにして置きたかったのですが、お酒に目のない、しかも酒乱の多いマーシャル人の手に入る事は許されませんので、一先づお預りするため持ち帰りました貴方様が捧げられた祭文は私声高らかに代読させていただきました。

般若心経の写しとお子様、お孫様からの手紙いづれ日を改め埋めます。お線香は雨に濡れないよう、今後お参りの折一番に使っていただくのが、最良の途と考えお預りしました。

墓参の帰り故君和田様の御遺骨発見され遺品を保管して徳原さんへお知らせ下さったハワイ出身の土木課の方へ御酒・煙草のお供物をお頒けして御礼申し上げました。それから病院の死体処理の係の方、当日ハイビスカスの花輪を作つて下さったり日頃墓所の芝刈り等して下さる庭園課の方々にも煙草・お菓子をお裾分けして御神酒と今後の事もお願いして参りました。何卒御了承下さい。

当日はもっと沢山の方が御一緒に墓参をなさりたかったのですがウィークデーに職場をはなれる事は非常に困難なシステムなのと、14日木旺は生憎く伝道の日で、早朝から外の島々に行かれた方が多く皆様大変申訳けなく思っていらっしゃいました。

奥様から大変ご丁寧なお言葉を頂きまして私は穴にでも入りたい思いでございました。皆様の限られた僅かの時間を私えの御挨拶で御邪魔しないよう一秒でも余計に墓前で御過し頂かなくてはとの思いで一ぱいでございました。奥様にも佐竹様にも他の皆様にも本当に満足な御挨拶も申上げず御訣れ致して仕舞いました。申訳なさ御詫びの言葉もない程の思いでございます。

バスでお迎えし、車中で皆様に親しく御挨拶申上げるプランをたてておりましたのがミッションとなり午後から休ませて頂くため早朝から始めたお仕事が思いの外手間どりまして御迎えに出る時間がなく、家え戻ってお花やお水をかかえて墓所え駈けつけるのがやっとでした。非礼の段お許し下さい。

去る25日（月旺）ルオット島に行ってまいりました。貴会からビーバー様（註①）に御依頼になりましたお花や靖国神社のお神酒確かにお供えして参りました。8月22日（金）セルフィニー氏（註②）から連絡がございまして月旺日朝8時15分の飛行便（註③）の許可を取ってあるから徳原様と私の二人で遺族会からの御依頼の花輪を墓前に供えに来る様、徳原様と私の上役にも連絡してあるから心配しないようとの事でございました。私先年、貴下様と御一緒いたしました折も時間がなくお経も唱える事なく去りましたしこの度の御遺族の墓参も得られることの出来ないルオットのお霊様へ申訳なさいっぱいでしたので、ルオット島へ渡航許可の申請書類の作成を主人に頼んだばかりでしたので、このお招ねきは願ってもない幸と大喜こびでルオット行かせて頂きました。

金旺のお話で月旺とあってはハワイからのお花の入手は出来ませんので、庭にあるだけの花をきり、頂戴いたしました靖国神社の神饌、羊かん、日本の煙草、お香などお預りしていた品々を持参テームス氏（註④）徳原氏と私の三人で行って参りました。

飛行機出発前セルフィニー氏から日本の方三人（註⑤）も同行を希望しているから待つようにとの事、お待ちしましたが、遂にお見えにならず残念でございました。

ルオットではグローバル（註⑥）の副支配人が車を用意して迎えて下さいました。セルフィニー氏は現在クェゼリンとルオットの両方の支配人をしていらっしゃいます。マッカーフィ氏（註⑦）が手術のためカリフォルニヤの病院に入院中のため。

墓所は御存知のように美しいルオットの広々とした広場に芝生も綺麗に刈られ快晴に恵まれ、六人程の方が駈けつけて下さいました。川手様（ルオット在勤の日系の方）は一昨年（註⑧）ソーダ水等冷し用意して下さった方ですが今度も同様墓

8月25日午前9時ルオット墓前

昭和五十一年二月六日（金）

前夜祭＝二月五日夜七時　九段会館
慰霊祭＝二月六日　靖国神社
直会旅行＝二月六日・七日　伊豆・下田
の御案内

恒例の二月六日前後の行事について御案内申上げます。

◎**前夜祭（二月五日夜　九段会館）**

電話　〇三―二六一―五五二一

昨年は私共多年の念願であった現地墓参が叶えられ意義深い歳でした。マーシャル群島が、グット身近に感じられてきました。今年の前夜祭は墓参の時のスライド、8ミリの映写や録音テープ、アルバム等を中心に懇談することにしました。

御希望の方は午後七時迄においで下さい。夕食は特に準備しませんから、会館の食堂で自由におすませ下さい。

◎**九段会館に宿泊**を希望される方は、宿泊月日、氏名、男女別、年令をハッキリ書いて**一月十日迄**に料金添えお申込下さい。宿泊料は一泊二食付一人分四千円です。

前夜祭にだけ参加する方は無料です。

◎**慰霊祭（二月六日　靖国神社）**

午前九時　受付開始＝参集所

午前十時　昇殿参拝

◎**定期総会**（靖国神社参集所）

慰霊祭終了直後昨年のとおり参集所で行います。十一時半頃解散と予定しております。

直会旅行に参加する方は解散後直ちに神社境内からバスで出発します。

◎**直会旅行会**（二月六日・七日下田）

○乗物　往復共観光バス

○宿泊　静岡県　下田温泉

下田グランドホテル

電話〇五五八二―二一〇一一

○費用　小学生以上一人　**九五〇〇円**

（六日の中食、宿泊料、七日の中食、往復バス代、おみやげ、雑費共）

○申込　一月十日迄に氏名、男女別、年令をハッキリ書いて料金添えお申込下さい。申込順に受付けて一月十日又は定員一〇〇名に達した時を以て〆切りますので早目におねがいします。

○コース　**二月六日**、総会終了次第（正午頃）バスは中食弁当を積込んで靖国神社前から首都高速、東名高速で厚木、小田原、熱海、伊東、熱川と、伊豆半島東海岸を南下し、下田温泉に向います。

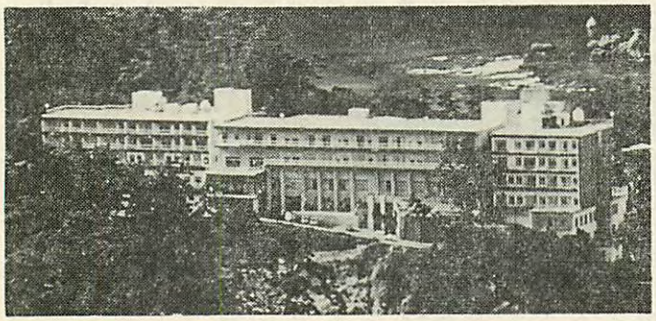
夕食後クェゼリン島墓参の時のスライド、8ミリの映写や録音テープ、アルバム等を中心に懇談致します。

二月七日、唐人お吉ゆかりの了仙寺にお詣りした後、半島最南端の石廊崎、マーガレットライン、男性美を思わせる松崎、堂ガ島、黄金崎、土肥と、半島の西海岸を北上し、船原峠を越えて、船原ホテルで中食。修善寺、三島から東名高速で東京駅、九段会館に帰ります。

途中帰宅の方のため、三島駅に立寄ります。東京駅着は七日午後六時二十分頃の予定です。

伊豆半島西海岸は、伊豆の秘境とも、富士山が最も美しく見える所とも云われています。精進のよい本会会員が行くのですからキット日本晴れになることでしょう。

（佐藤）



下田グランドホテル全景

前に供え参拝者にも配って下さいました。

妙法蓮華経方便品第二
妙法蓮華経如来寿量品第十六
南無妙法蓮華経　百遍

その後

般若心経七度

奉唱させて頂きました。甘茶も二升墓石におかけいたしました。霊様えの何よりの功徳と教えられて居ります。御礼拝の後、お供え致しました五目ずしを皆様にお配りし墓前でお相伴させて頂きました。ここはクェゼリン本島とちがい家族も住んでおらず、現役中のミサイル発射場なので再三の墓参も出来ず申訳けなくてお詫びして参りました。

セルフィニー様が大変お心にかけられ、ここは心ない人々によって汚される心配は絶対なく、美しく静かな、この島に眠る英霊のみたまは幸福ですとお聞かせ下さいました。どうか御遺族の皆様にご安心下さいますようお伝え下さいませ。お蔭様で私もお参りさせて戴き、本当に有難く御礼申し上げます。

貴方様の誠意ある御努力には只々頭が下るのみでございます。英霊のみたま、御遺族の感謝必ずご一家の上に光となる事と存じます。尚一層の御活躍をお祈り申し上げております。

第二信（9月24日認）

本日は9月24日。後二日で出立とい

寄付者芳名

（五二名）

今期もまた左に掲げますとおり、多数の有志の方からの御寄付をいただきました。厚く御礼申上げます。

ここに載せました会員の方からは、寄付の外に五十年までの会費は全部いただいております。中には先々までの分を前納下さっている方も多数ありますことを申添えます。

環礁を御覧下さってお悦びのお便りをいただいたり、寄付の御送付によって経済的の御協力をお考え下さる実情に接し、会長はじめ役員一同張り合いを感じ努力をつづけております。

（昭和50年6月1日から昭和50年10月31日までに入金の分）

寄付額　芳名（敬称略）

篤志会員その他

五〇ドルチェームス・ケアロハ殿
一六〇〇〇〇　匿名氏殿
五〇〇〇〇　匿名氏殿
一〇〇〇〇　塩野宜徳殿
五〇〇〇　板垣徹殿
三〇〇〇　夏島会殿
二〇〇〇　金子英郎殿
一〇〇〇　珊瑚会殿
三九八七現地墓参々加者一同

北海道

一〇〇〇　妻　田村ヨシ

青森県

二〇〇〇　母　高山カヤ
一〇〇〇　兄　池田精治
〃　妻　雫石初子
五〇〇　母音喜多ミチヨ

福島県

一〇〇〇　母　堺ヤキ
〃　姉　富田ミツ

群馬県

五〇〇　母　森ゆき江

千葉県

一〇〇〇　兄　為貝隆之助
〃　父　東条倉蔵

訂正　前号寄付者芳名中一〇〇〇円川名博夫は二〇〇〇円の誤りです。謹んで訂正いたします。

東京都

一八〇〇〇　兄　小池勇二
一〇〇〇〇　母　林春千代
三〇〇〇　母　吉田いそ
一五〇〇　妻　鈴木つな子
一〇〇〇　妻　若松モト
〃　長女　若松貞子

神奈川県

三〇〇〇　妻　佐藤登志
一〇〇〇　吉水梅子

新潟県

五〇〇〇　妻　高林セキ

富山県

訂正　前号寄付者芳名中藤田ふしえは松田ふしえの誤りです謹んで訂正いたします。

福井県

二五〇〇　妻　三反崎民子
一五〇〇　妻　梅田清子

長野県

一〇〇〇　母　江間イクヨ

静岡県

一〇〇〇　父　勝又良蔵
五〇〇　父　影山金作

愛知県

二〇〇〇　母　岡本はぎ
一〇〇〇　妻　山田あき
一〇〇〇　妻　大見しのぶ

鳥取県

一〇〇〇　母　田中はつの

島根県

一〇〇〇　父　深野政七

広島県

八〇〇〇　妻　浦手ハル

山口県

二〇〇〇　妻　内富みつゑ

香川県

二〇〇〇　母　横山よすゑ

愛媛県

一〇〇〇　妻　岡村栄子
〃　母　村上サダヨ

福岡県

一〇〇〇　妻　森キヨ子
五〇〇　兄　一木貞利

佐賀県

三〇〇〇　母　大久保きぬ
一〇〇〇　母　大串サキ
〃　兄　手島辰己

大分県

二〇〇〇　母　宮成みつぎ

宮崎県

一五〇〇　妻　山口マサ子

鹿児島県

一〇〇〇　妻　吉水ハルミ

沖縄県

一〇〇〇　妻　野原カマド

う日が参りました。19日迄契約に縛られ、勤めておりましたので、今日になってもまだ、片付けに追われており、お手紙おくれお詫びいたします。

去る14日（日）大里様御夫妻、徳原様、私共一家六人当地墓所にお参りし一切のお供物すべて墓石近くに埋めて参りました。御遺族のどなたかが、お供えのそうめんも茹ゆでて、おつゆをつけ改めてお供え申し上げました。何卒御休心遊ばしますよう皆様にお伝え下さいませ。私も心残りなく、お別れできる思いでございます。

永い間思う万分の一も御役に立てず申訳けなく、心からお詫び申します。

今後も在島の皆々様が真心こめて御守り下さると信じております。手許に着きましたルオット島墓参の折々の写真同封申し上げます。本当にお名残り惜しゅうございます。

第三信（10月14日認）

26日クェゼリンをたちハワイ、シャトルを経てオレゴンの自宅に10月3日無事到着致しました。ハワイで徳原徳子様と一晩ゆっくりお話致しました。クェゼリン滞在中は御役にもたちませぬ私をひとかたならず御信頼下さり、又お手紙には何時もお心にかけ美しい切手をお貼り御礼の申し上げようもございません。

26日早朝主人と共に墓前に最後の御別れの御挨拶に伺って参りました。今後も今迄以上に皆々様御霊につくして下さると信じております。

荷物の整理も出来ず、毎日何かと忙しさに追いまわされております。寒さに向います折柄御身くれぐれも御大切に遊ばし今後も皆々様のお力になって差上げて下さいますよう、朝夕お祈り申し上げております。

（註）の説明

①クェゼリン、ミサイル地域部隊の連絡将校
②ルオット島駐在グローバル社副支配人。今次大戦中ルオット戦に従軍。同島に日本人墓地を建設し、祭典、かねての清掃に当りルオットの主として米軍及び日本人二世に崇敬される篤志家
③クェゼリン本島とルオット島間基地連絡用定期航空便
④徳原勇様の上役
⑤NASDAダウンレンチ局派遣員がたまたま在島中
⑥クェゼリン島軍用工事請負会社
⑦グローバル社支配人
⑧昭和48年11月現会長が厚生省の遺骨収集団と共にルオット墓地墓参時

事務局だより

○新篤志会員紹介

環礁にウオッゼの状況を寄稿して下さった元厚生省援護局勤務の千葉秀夫さんが篤志会員になりました。

○現地墓参希望の方へ

今回の現地墓参は、本号で参加の方々が御執筆のとおり病気その他事故なく予定通り完了しましたが、明年以降本年どおり実行できるかどうか確言できません。ただ万一ということがありますので、若し許されるなら行きたいという希望者の方ありましたらその都度はがきで結構ですから書きものでお知らせ置き下さい。環礁が半年に一回づつなので、募集に半年以上かかり、好機を逸することがあります、予め御申出下されば、入域許可あり次第希望者にはすぐ御連絡することに致します。

なおご参考迄に今回の参加員一名に対する経費は

旅行経費	三一〇、〇〇〇円
保険料	二、二一〇円
旅券印紙代	六、〇〇〇円
渡航あっ旋手数料	一、五〇〇円
査証料	三、五〇〇円
計	三二三、二一〇円

で、その他会として通信、印刷、交通行動中の不慮の支出等のため本部の方で、一人三〇、〇〇〇円運営費としてお預りしましたが使用の残金一人当り二四、五〇〇円帰国後お返ししました

○昭和50年現地墓参団参加者名簿

本号に感想を寄稿された28名の外、幹事大高吉郎様、幹事国松ふみ江様、会員植田操様外2、会員西原康雄様、会員藤田きよせ様、会員水野はな様。

今回は御多忙のため寄稿を頂けませんでした。次号にお願いいたします。

○浜木綿（はまゆう）だより

環礁22号ではじめて掲載した所、多数の希望者があった。昨年4月株分して11鉢とし、現在芽は50位増えた。然し花は今年も昨年の親株だけ立ち上り一つ咲いただけであった。NHKの趣味の園芸によると、基部の球根状の肥大部が大きく育っていないと花をつけにくく、小さいものは株分け後花立ちをする迄数年を要すると教えている。従って今本部にあるものは、あと三、四年育てないと花は見られないらしい。現地のものは温度と降雨の関係もあってか素晴らしく背も高く、茎も太いが、ここのは親株でも高さ38センチ、株の直径6センチ。来年4月の株分けのときお届けすることに致します。

○戦記シリーズ休載

今回は現地墓参の貴重な御体験を沢山に頂戴しました。28人の方がいろいろの角度からの御感想、何れも参加されなかった方への、得難いお土産話となりますので、総頁を4頁増としました。それでも掲載しきれませんでしたので誠に申わけありませんが、井上、佐竹両常任幹事、昼間、高林両幹事に編集をお願いし、多少加除いたしました。御了解を得ず除いたところもありますが御寛容お願いいたします。

これに関連し戦記シリーズも掲載できず休載いたしました。

謹賀新年

昭和五十一年元旦

◎本会役員及び篤志会員

名誉会長	朝香鳩彦	篤志会員
顧問	古賀繊之助	篤志会員
相談役	朝香孚彦	篤志会員
会長	浮田信家	篤志会員
副会長	佐藤宗丕	篤志会員
常任幹事	井上賀雄	篤志会員
常任幹事	佐竹エス	篤志会員
幹事	秋山正清	篤志会員
幹事	宇田川ヒサ	篤志会員
幹事	岡野正文	篤志会員
幹事	木村久子	篤志会員
幹事	国松ふみ江	篤志会員
幹事	小泉文江	篤志会員
幹事	高橋鎮夫	篤志会員
幹事	高林芳夫	篤志会員
幹事	土岐達雄	篤志会員
幹事	橋口昭利	篤志会員
幹事	昼間楽平	篤志会員
幹事	山浦信子	篤志会員
監事	末広正男	篤志会員
監事	大高吉郎	篤志会員
篤志会員	板垣徹	篤志会員
篤志会員	大野克一	篤志会員
篤志会員	嘉村栄	篤志会員
篤志会員	木ノ下甫	篤志会員
篤志会員	ケイス・エスウィリアムス	篤志会員
篤志会員	瀬沼光久	篤志会員
篤志会員	千葉秀夫	篤志会員
篤志会員	土屋太郎	篤志会員
篤志会員	徳原勇	篤志会員
篤志会員	同徳子	篤志会員
篤志会員	中島昌彦	篤志会員
篤志会員	中田虎一	篤志会員
篤志会員	成田喜代治	篤志会員
篤志会員	西村祐造	篤志会員
篤志会員	長谷川栄次	篤志会員
篤志会員	長谷川敏	篤志会員
篤志会員	林幸市	篤志会員
篤志会員	藤平直忠	篤志会員
篤志会員	松平永芳	篤志会員
篤志会員	村岡達志	篤志会員
篤志会員	横溝幸四郎	篤志会員
篤志会員	安藤サヨ	篤志会員
篤志会員	白鳥悦子	篤志会員
篤志会員	本木光江	篤志会員

本部
郵便番号一五四
東京都世田谷区野沢
三丁目十一番三号
マーシャル方面遺族会
電話（東京）四二四－四三〇〇番